

報告タイトル

中国・山西省における産業間ネットワークと経済成長パターン転換

Inter-industry Networks and the Transformation of Economic Growth Patterns in Shanxi Province, China

氏名(所属)

李 翔宇 (同志社大学経済学部)

Xiangyu LI (Faculty of Economics Doshisha University)

要旨(800字程度)

中国の中部地域各省における鉱物資源の開発利用と経済成長に関する既存の考察の結果により、山西省をはじめとする鉱物資源が豊富な地域における「資源の呪い」現象が観察され、豊富な鉱物資源は山西省の経済成長を阻害していることが確認できる。ところで、地域産業構造の変遷と要因分解をマクロ的な視点から行うだけでは地域間格差の是正策について、多くの先行研究と同じように鉱物資源を開発と利用に関する産業に特化しないことしか提言することができないと考えられる。そのため、地域経済成長をパターン転換させる方法を明らかにするためには、ミクロ的な視点から部門ネットワークがいかに質的に結びついていることを改めて認識する必要があると考えられる。

以上を踏まえて、本研究では次のような仮説を設定した。枯渇性資源を豊富に有する中国・中部地域および山西省において、それを開発する企業のサプライチェーンを垂直統合的に再構築することによって、「資源の呪い」から脱却することが可能となる。つまり、マクロ的な地域産業政策の議論とミクロレベルの企業戦略を統合することにより、山西省における経済成長パターンを転換させるための具体的な方法が発見できると考えられる。

そこで本研究は、まず、供給構造および需要構造の視点から山西省の2017年の42部門間取引ネットワークの質的産業連関表を作成した。それらにより、投入係数と算出係数を用いて、後ろ向き供給基本ネットワーク(BS-ICN)と前向き需要基本ネットワーク(FD-ICN)を構築し、代表的なネットワーク中心性の指標となる次数中心性、媒介中心性と接近中心性を用いて、山西省における各部門の質的ネットワーク特性を明らかにした。また、ミクロ的な視点で、山西省における石炭採掘・選別業に従事する企業が垂直統合戦略を実施する際に、それぞれの企業のサプライチェーンの上流と下流における比較的適切な部門にまで自社事業領域を展開についてグラフ化したもので提示している。